



渡 部 悟

昭和 23 年 4 月 15 日生まれ

1. 略歴

- 1967 年 3 月 北海道立紋別北高等学校卒業
- 1971 年 3 月 日本大学文理学部体育学科卒業
- 1973 年 4 月 日本大学商学部体育助手
- 1978 年 4 月 日本大学商学部専任講師
- 1983 年 4 月 日本大学商学部助教授
- 1993 年 4 月 日本大学商学部教授
- 1996 年 4 月 日本大学教育制度研究所所員（～1998 年 3 月）
- 2009 年 10 月 日本大学商学部学生生活委員会委員長（～2011 年 3 月）

2. 主要論文

- 「スキー指導への提言－初心者におけるプルークの重要性－」『商学集志人文科学編』（1976）第 8 巻，第 2 号，pp. 49-57。
- 「ハンドボールのペナルティスローに対するキーパーの反応の特徴について－反応に至る時間経緯からみて－」『体育方法学研究』（1988）第 1 巻，pp. 91-105。
- 「テニス初心者の運動学習にみられる習熟過程の特徴」『総合文化研究』（2000）第 5 巻，

第3号, pp. 19-32。

「バドミントン初心者のフォアハンドでのショートサービスに関する研究－ラケットヘッドの移動軌跡に着目して－」『総合文化研究』(2013)第18巻, 第2・3号, pp. 71-83。

「本学部学生の運動意欲と運動クラブ活動環境に対する満足感について－運動クラブの選択理由との関連からみて－」『商学集志人文科学編』(1993)第25巻, 第1号, pp. 21-38。

「運動・スポーツ活動の継続を規定する心理的要因の性と年齢による違い－通信教育部の学生を対象とした分析－」『総合文化研究』(2012)第17巻, 第3号, pp. 1-17。

論文 35 編

3. 主要所属学会

日本体育学会 (1973年～), 日本体力医学会 (1974年～), 日本スポーツ心理学会 (1980年～), 日本コーチング学会(旧スポーツ方法学会)(1984年～), 桜門体育学会(2010年～)

4. 私の研究

私は大学卒業後, 一度企業に就職してから体育助手として商学部に奉職した。このような経緯から大学院での経歴がない私のために, 経済学部の近藤先生(スポーツ生理学)が特別に研究会(勉強会)を作ってくれた。その研究会では, 文理学部の永嶋先生(スポーツ方法学)や吉本先生(スポーツ心理学)方からも教えを受けた。研究会は2年間にわたり開かれ, この段階を踏まえて本格的な研究活動が始まった。

最初は学生時代に冬季スポーツ(スキー), 球技スポーツ(ハンドボール)を続けてきた経験から, 「スキー技術の指導方法の研究」「ハンドボールではゴールキーパーの視覚行動と反応」について取り組んだ。

次に, 大学生の運動クラブ参加意識と運動意欲などについて, また通信教育部の学生を対象とした生活環境と健康意識などについて継続的な調査研究を行ってきた。

その後, テニスやバドミントン初心者の運動学習における知覚技能習熟などについて, 現場(授業)の指導に直接結びつく研究を中心に取り組み, 現在に至っている。